

飛鳥Ⅱ 世界一周クルーズ

或る一日

岡崎市 中濱 正二

飛鳥Ⅱの世界一周クルーズ(2018/3/25～7/5)に乗船した。子供の頃からの夢を実現できたことになる。終日航海日の「或る一日」を記してクルーズの様子を紹介する。



4/2シンガポール

★★ 起床 ★★

モーニングコールの音で起床すると直ぐに船窓のカーテンを開ける。同じ時刻にも拘わらず、薄暗かったり、既に太陽がかなり登っていることがある、緯度の違いもあるが、船内時間の時差調整の影響が大きい。前夜、緑色の時刻改正の案内が入っていると時刻を遅らせ、赤色の案内が入っていると時刻を進ませる。西周りの世界一周なので、ほとんどは緑色で一時間余分に寝られる。ヨーロッパを航海している間は赤色もあった。

私のキャビンは7階の右舷側最前部にあり、飛鳥Ⅱのなかでももっとも揺れるキャビンだ。一方、船窓からの前方の見通しが良く、直ぐに船首のデッキに出られるのは魅力だ。

モーニングコールより早く目が覚めた朝にはデッキをウォーキングする。既に多くの乗客が歩いている。爽快で気持ちの良い日もあれば、湿気でジトジトした日もある。穏やかな日もあれば、風に飛ばされぬよう踏ん張って歩いた日もあった。何周か歩いた後、時間を見計らってラジオ体操会場のクラブ2100に向かう。

ラジオ体操の参加者は多くラウンジ内は混雑している。扉の外のマリナーズクラブ前の通路が私の定位置になった。ラジオ体操に引き続きストレッチ教

室が開催されるが、これも混雑しているので参加せず、6階からフィットネスルームの12階まで階段を駆け上がって自主ストレッチをした。

ストレッチ後は近接するグランドスパで朝湯に入る。キャビンにもバスタブがあるが、大浴場は気持ちが良い。この時間帯は空いていてゆっくり湯船に浸かれる。身体を洗っていると湯船の方向から凄まじい音が聞こえてきた。大量の湯が溢れ出た様だ。その瞬間を目撃していないが、さっき KONISHIKI さんが浴室に入ってきたので、彼が原因に違いない。



4/23バレッタ

★★ 朝食 ★★

朝食はフォーシーズンダイニングで和食を食べることが多い。和食は何となく健康に良さそうな気がする。朝昼は服装の規定はないが、長ズボンに履き替えて出かける。朝食時間としては遅い時間帯になるのでレストラン内は空いていて、窓際の席に案内してもらえる。

干物か焼き魚がメインになる和定食である。クルーズ途中で温泉玉子が黄身だけのかけ玉子に変わったり、ビュッフェコーナーに洋食が追加されたりの変化があった。前者は日本で積み込んだ卵を食べきり、海外産の卵に変わったのが理由と説明があった。後者の説明はなかったが、クルーズ中に2回実施された乗客へのアンケート結果に基づいて改善されたのではないかと思う。

お盆の上には小皿がたくさん並べられるが、メニューを見て「XXとXXはいらない」「XXは2つ」「ビュッフェコーナーのXXも持ってきて」と乗客は我がままだ。そんな要望にもフィリピン人クルーはしっかり対応ができていて良好なサービスだった。

★★ ビスタラウンジ ★★

朝食を終えるとパソコンを持って11階船首のビスタラウンジに行く。ラウンジ後部の壁際のセンターが最も景色が良い。直ぐにウェイトレスが注文を

聞きに来てくれる。毎朝アイスカフェオレを注文していたら、向こうから「アイスカフェオレ？」と聞いてくれるようになった。外国船では有料のコーヒー類やソフトドリンクが無料なのは有難い。毎日2杯以上飲んだので100日間では纏まった額になる。

同じ時間帯、同じ場所には、同じ顔触れが集まる。次の寄港地に関する事など、ビスタラウンジが情報交換の場所になった。

毎朝8時50分から船長の航海情報の放送が始まる。当日の航行コースや天候、海象に関する説明が多いが、時にはマニア受けする話が聞ける。近くに大きな声でおしゃべりしている人がいたら、スピーカーの近くに移動して放送を聞いた。

「昨夜の航跡図が折れ曲がっているのは、ストブローしたため」「造水量を高めるため速度を上げるが、早く着きすぎるので遠回りする」「リクワイアスピードが下がったのでエンジンを4機から3機に減らす。但し途中でワンキック入れるかもしれない」等。もちろん用語についての説明もあったが、聞き逃した乗客が少なくなく「飛鳥Ⅱには4つもスクリューが付いている」と理解していた人もいた。

★★ 乗船記作成 ★★

毎日乗船記を書いてホームページを更新することを決意して乗船の準備をして来た。乗船記は主にビスタラウンジで作成した。持ち込んだパソコンに入力した後、インターネットに接続してホームページを更新した。船内のWi-Fiを利用して更新する予定だったが、飛鳥Ⅱの回線は遅くてホームページの更新には使えず、メールの送受信に利用するのがせいぜいだった。

多くの港では無料のWi-Fiが使えて便利だった。その結果、船が港に寄港した時にまとめて更新することにした。客船ターミナル内のWi-Fiが使える場所は、飛鳥Ⅱのクルーが多数集まっているので直ぐわかる。接続方法は彼らに尋ねると詳しい。出港時にはWi-Fiの電波を求めてクルーが船首に集まる。そこはクルー専用のデッキだ。夜間出港時の専用デッキには、クルーが持つスマホの画面が蛍のようにあちこちで光っていた。

海外で使えるSIMカードも持参した。港から少し離れた洋上にいても繋がるし、寄港地で観光している最中でも利用できるのが便利だ。終日航海日でも、沿岸や島沿いを航行している時には、一時的にインターネットが繋がることもある。そのタイミングを逃さずにホームページを更新した。



★★ ダンス教室 ★★

クルーズ前半には景品目当てでゲーム大会に参加することもあったが、途中から止めた。ビスタラウンジに居て海と空を眺めている事の方に世界一周クルーズの価値を感じた。カルチャー教室にもほとんど参加しなかったが、写真教室とダンス教室には欠かさず出席した。

ダンス教室は初心者向けの午前と中級者向けの午後に分かれて開催され、私は午前のクラスに参加した。午前のクラスは講師の先生が驚く程の多くの参加者数で、尚且つ途中の脱落者が少なく、最後まで混雑していた。先生と組むことができないどころか、先生の足型すら十分に見られない状況だった。参加者全員が同時に踊ることはできず2班とか3班に分かれて踊った。上達の速度は遅かったが、回数を重ねるのに従い以前習っていた経験が蘇って、少しは踊れるようになった。フォーマルディには、ギョチなかったがお相手することができた。

★★ 昼食 ★★

昼食もフォーシーズンダイニングで和食を食べることが多かった。麺類や丼物のメニューが多い。他に軽食として和風カレーや茶漬けセットも日替わりで選択できた。ダイニングの入口には11階のビュッフェのメニューも掲示されているので、和食が物足りなかつたり、ビュッフェに気になるメニューがあったりすると、その足で11階に行くこともあった。

★★ パームコート ★★

昼食後再びビスタラウンジのいつもの席を陣取る。その後ティータイムに合わせて、隣のパームコートに移動する。

いつものアイスカフェオレではなく、紅茶かハーブティーを注文する。ピアノの生演奏を聴きながらのお茶とケーキは優雅だ。初代飛鳥の頃と比べてケ

ーキが随分小さくなった。お陰で全種類食べてもたいした量ではない。

ケーキではなく和菓子や中華菓子が出ることもある。そんな日は混雑してパームコートが埋まる。聖護院八ッ橋の和菓子が出た時には長い列ができた。それでもティータイムの後半になると、列が無くなり、空席も出てくる。私の様に長居する人は少ない。



5/8アムステルダム

★★ コーラス教室 ★★

クルーズ前半にコーラス教室が開催された。テノール歌手の指導でベートーベンの第九を歌う教室だ。発声の基本から、気持ちの入れ方まで教えてもらったが、難しかった。男女関係なく日本語の歌詞をユニゾンで歌うのだが、ハモッて聞こえるから不思議だ。そんな実力である。コーラス教室は4月上旬に終了し講師の先生はオマーンのサララで下船することになっている。その前に乗客全員の前で披露する発表会が予定されていた。しかし発表会直前になっても最後まで歌いきれない状況が続いて、先生は焦っていた。ようやく前日になってなんとか目途が見えて来た。指導方法を試行錯誤した先生の努力が実を結んだようだ。当日は昼間に最後の練習をし夜の本番を迎えた。

会場は飛鳥プラザ。2回の夕食の間の時間を使ってコーラスを披露した。幸いにも我々にとっての最高のパフォーマンスで歌えた。本番に強いメンバーが揃っていたらしい。大きな拍手を得て、アンコール曲の「故郷」まで見事歌いきることができた。そして先生はサララで無事下船することができた。

★★ フィットネス ★★

夕方にフィットネスに行く。軽く筋トレしたあと30分間走るのが、いつものメニューだ。デッキを走るのが船旅の醍醐味ではあるが、デッキはウォーキング専用にして、普段から走り慣れているランニン

グマシンの上を走った。

慣れたマシンでも、揺れている日は注意が必要だ。船がローリングして爪先側が下がると下り坂、反対に踵側が下がると上り坂を走っている感覚になる。動揺周期に合わせて上り坂と下り坂が繰り返して現れるタフな道だ。揺れが激しい時は、身体が横に持って行かれそうになって危険だ。そんな日は走るのを止めてウォーキングに変更した。

走った後は、またグランドスパで入浴だ。グランドスパには体重計があり、体調管理のため毎日体重を測った。船が揺れると体重計に乗る度に異なった数値が示される。そんな場合は軽い方を信じたいのが人の性。さらに揺れが激しくなるとエラーになって測定できなくなることもあった。大西洋ではしばらく揺れる日が続いて正確な体重が測れなかった。その後穏やかな日に体重を測ったら、想像以上に体重が増えていてショックだった。軽い方の体重を信じていたのが原因だ。

グランドスパでトレーニングウェアから短パン、Tシャツに着替えてキャビンに戻る。その時間はファーストシッピングの夕食開始時刻に重なることが多かった。フォーマルやインフォーマルの着飾った乗客と出くわすと気まずいので、そんな日はキャビンのバスタブを使った。



5/24セントジョン

★★ 夜のショー ★★

セカンドシッピングの人のためのショーは17:45から始まる。ギリギリに行っても席は十分確保できるし、ギャラクシーラウンジは最近の海外船と比べるとコンパクトなので、後ろの席でも良く見える。舞台の前には飲み物の注文がなく手持無沙汰のウエイトレスが2人立っている。気の毒そうに見える。

世界一周クルーズでは新しいプロダクションショーをお披露目するのが恒例のようだ。本クルーズ

でもプロダクションショーとイリュージョンショーのお披露目があった。その夜は早めに並んで最前列の席をGETした。飛鳥Ⅱは舞台と座席が近いのでダンスシーンは迫力がある。「とても良かった」という私の感想に対して、ヘビーリピーターの反応は冷ややかだ。「いつでも観られるし」と観に行かなかったらしい。確かに、本クルーズで終演したイリュージョンショーは2015年からの上演というから、ヘビーリピーターは何度も同じプログラムを観た（観なかった）ことになる。

上演中の写真撮影は禁止されているが、終演後ラウンジの出口で出演者と記念撮影できる場合がある。スタッフに自分のスマホを託して何回か撮ってもらった。

★★ リドガーデン ★★

ショーの終演から夕食まで45分もあり、時間潰しがてらリドガーデンに行くことが多かった。

リドガーデンでは「ステーキ定食」や「餃子定食」などのメニューがこの時間帯のみ食べられる。フォーシーズンダイニングのメニューと見比べながら、定食ではなく「ステーキだけ」「餃子だけ」を注文した。そこまで食べられない時には、アイスクリームやかき氷を注文した。

★★ 夕食のテーブル ★★

セカンドの私の夕食は19:15から始まる。ファーストは17:00からとかなり早い。クルーズ中ファースト/セカンドの入替はない。席は自由席でウェイトの案内で席に着くが、慣れてくると案内なしで「いつもの席」に行き着席する乗客が多かった。

一人参加者には大きな丸テーブルが予約席として確保されていてそこに着席した。日が経つにつれ、このテーブルのメンバーは入れ替わっていったが、ヘビーリピーターのご婦人Aさん、Bさんとは最後まで一緒に夕食を取る事となった。

周りのテーブルにも同じ顔触れが座った。窓際に見かけない人が座っているのは、いつもの人が出遅れたのが理由だ。遅れて来たいつもの人は少し離れた席に着いた。

いつも一人で食事をしてきた男性にお相手があった。船上の恋かと噂したが、途中の港から乗船して来た奥様と判明した。

AさんとBさんからは、飛鳥Ⅱの過去の世界一周クルーズや他の日本船の世界一周クルーズの話を聴かせてもらった。飛鳥Ⅱのしきたりや他船との比較など興味深い話だった。また、別のヘビーリピータ

ーを紹介してもらって、ヘビーリピーターの船内生活とは如何なるものかを垣間見させて頂いた。

しかし、クルーズ後半になると話題がなくなり、会話が少なくなった。そんな時、別のグループと一緒にになった。麻雀好きのAさんとカジノ好きのBさんの共通の遊び仲間が居るグループだ。AさんBさんと一緒に面識のない私もグループに引き入れてもらった。

新たなグループのCさんは親分肌だ。寄港地ではタクシーをチャーターした自主ツアーを企画してくれた。タクシーの手配から会計まで全部やってくれた。ツアーの一部だけを部分的に参加したいという面倒くさい参加者がいてもOKだ。参加者が増えると一人当たりの費用が下がるのでウエルカムとの事。そんなCさんでもツアーを企画しない寄港地があった。カジノに行くのが理由だ。寄港地にカジノがあればカジノに行くのがCさんの常で、BさんがCさんと初めて出会ったのもアムステルダムのカジノの店内だ。



★★ 飛鳥Ⅱの夕食 ★★

飛鳥Ⅱの夕食は美味しい。最近は海外のクルーズ船に乗船する事が多かったためその違いは大きい。飛鳥Ⅱの牛肉はほとんど黒毛和牛だし、生鮪も何回か出てきた。食材費の掛け方が違う。

101回の夕食は、和食50、洋食32、和洋折衷5、中華中国5、イタリアン4、ハワイン1、デザート4の内訳だった。クルーズ中のメニューはクルーズ開始の3か月前には決定済みで、日本でしか入手できない食材は、飛鳥Ⅱの横浜出港より早くに日本から送り出したとの事。

食事の量は少な目だったので、洋食の場合はメインを2種類注文することが多かった。和食に黒毛和牛が出た時はお替りした。蟹が出た夜はお替りする人が多く、蟹が足らなくなって厨房は大慌てだった

とのこと。

★★ マリナーズクラブ ★★

夕食後キャビンに戻ると船内新聞が入っている。マリナーズクラブでピアノの演奏を聴きながら船内新聞を基に翌日の計画を練った。

マリナーズクラブにはリクエスト一覧表が置いてあって番号でリクエストできた。しかし何度も通っていると一覧表の曲はリクエストし尽して、他の曲もリクエストした。日本語の曲名は分かっている、英語の曲名が分からなくて苦労した。せっかく曲名が分かっても「ごめんなさい」と断られることもあった。しかし数日後に行くとその曲を弾いてくれた。その間に楽譜を調べてくれたようだ。

ディズニーやミュージカルの曲を何度もリクエストした。私の顔を見つけると、リクエストしていないのに、私の好みの曲を弾いてくれた。

ニューヨークでピアニストが交代した。さらにクルーズ後半になると利用者が増えて騒々しくなってきた、マリナーズクラブから足が遠のいてしまった。

★★ まとめ ★★

クルーズ船に乗船すると、早く寝るのがもったいない気がして夜更かしすることが多い。しかし103日間乗れるとなると「また明日がある」と早寝して健康的な生活だった。

そんな世界一周もあっという間だった。リピーターでも「世界一周は長い」「早く孫の顔が見たい」という人がいたが、こんな快適な船上生活なら、あと2周や3周続けて乗船してもOKである。但し、料金のことを考えなければの条件付きである。

(終わり)